

# 第1回高梁市立学校園適正配置検討委員会 会議録

日時：令和5年9月7日（木）13:30～15:00

会場：高梁市役所 3階大会議室

## 1 開 会

教育長あいさつ

教育長

学校の再編等については平成16年の合併以来、7小学校1中学校の再編を経て、平成30年には「学校再編推進審議会」の答申を受けた基準により、該当する学校について順次再編を進めてきた。

答申後、子供の出生数が激減し、160～190人くらいでなだらかに減少していたが、令和4年が89人、今年も確認できる数が81人で、以降もV字回復は見込めない状況。ここまで急速な子供の減少が進むと、現状のままで学校の体制を続けていくことは非常に難しい状況になる。10年後20年後の高梁の学校の適正配置について、しっかりと立ち止まって考えていかなければならないということで、この会を設けたという趣旨をご理解いただきたいと思います。

## 2 委員委嘱・紹介

選出区分	氏 名	備 考	出欠
学識経験者	山部 正	元順正短期大学学長	出席
学識経験者	平山 竜美	元小学校長	出席
学識経験者	熊谷 慎之輔	岡山大学 大学院教育学研究科教授	出席
市議会議員	伊藤 泰樹	総務文教委員会委員長	出席
保護者の代表者	大倭 治朗	落合小学校区	出席
保護者の代表者	赤木 要	福地小学校区	出席
保護者の代表者	瀬島 典子	巨瀬小学校区	欠席
保護者の代表者	上山 英貴	中井小学校区	欠席
保護者の代表者	牧野 直人	宇治小学校区	出席
保護者の代表者	藤原 完治	富家小学校区	欠席
保護者の代表者	妹尾 一十三	川上小学校区	出席
地域の代表者	福島 利久	高梁・松原小学校区	出席
地域の代表者	森宗 正雄	玉川小学校区	出席
地域の代表者	小野 元子	津川小学校区	出席
地域の代表者	藤井 正直	川面小学校区	出席
地域の代表者	湯浅 末子	有漢東小学校区	出席
地域の代表者	松田 健治	成羽小学校区	出席

### <事務局>

職名	氏名	出欠
教育長	小田 幸伸	出席
教育次長	高原 あゆみ	出席
参与	福原 洋子	出席
教育総務課長	藤井 聡美	出席
教育総務課長補佐	赤迫 和之	出席
こども教育課長	荒田 真一	出席
こども教育課長代理	西川 優子	出席
社会教育課長	亀山 智弘	出席

### 3 会長・副会長選出 会長 山部委員 副会長 伊藤委員 会長あいさつ

#### 会長

この会議のコンセプトは、高梁の教育をどうするか、子供たちのために最高の教育は何であるかを忘れることなく審議していきたい。

そして高梁ならではの教育が確立できれば尚更で、他所にない高梁の教育を皆さんのお力をいただきながら是非作りたいと思っているので、どうぞよろしくお願ひしたい。

子供たちが安心して教育を受けられる高梁市でないといけないということを考えていくと、子供の激減に対してどう対応するのが一番いいのかをもう少し前回の答申に基づいて検討していただきたいということで、学校園の適正配置に主眼を置いて検討していただければありがたい。

### 4 協 議

#### (1) 委員会設置の背景

- ① 高梁市立学校再編推進審議会（平成30年3月）からの「答申」について
  - ・ 基本的な考え方等
  - ・ 前回答申後の動向

(事務局説明)

#### 委員

小学校が2クラス、中学校は1桁が3年連続という基準に対して、教育委員会に学校あるいは地域から連絡、意見があったか。

#### 事務局

市の基準は、国の基準と比べて最低限学校を存続するための基準。国の基準は、小学校だと各学年2クラス、中学校は各学年3クラスを切るようなら統廃合の対象にするというもの。

これに対してもっと低い基準にしてほしいという声は聞いていない。保護者の意向は大きい学校に行きたい、地域の人学校が残ってほしくて反対することが多いという声はあった。中学校で一番聞

くのが部活動の問題で、早く統合してほしいという声はある。

#### 委員

2クラスしかない学校で、1年生と3年生の担任、2年生と4年生の担任をしたことがあるが、学校に校長を含め教員が3人しかいないので時間割を作るところから大変だった。無理な時間割のしわ寄せは子供たちに随分いっていたと思うが、子供たちはそれに慣れながらやってくれた。

教員も大変だったが、子供たちにも負担をかけた。保護者はその状況に理解を示してくれたが、2クラスというのは本当に大変だった。

#### 委員

再編については令和4年にPTAから声が上がって1年検討し、今年度設置した準備委員会で7年度から統合することが決定した。平成30年度の児童数が全校で24人、昨年度が11人、今年度は6人と凄いスピードで子供の数が減った。再編の検討等を始めてから実際に再編になるのは2年後ぐらいなので、その時には教員3人になりかねないようなスピードで子供が減っている。この基準よりも少し早く、小学校で言えば2クラスとなる3年前からに加えて全校で20人を下回るのが分かったらすぐ始めるくらいでないと、間に合わなくなるのではないかと思う。

#### 委員

今の学校の状況を考えると新しい再編の基準とか見直しをしないと、子供のためになるような教育ができない状況になるのではと危惧している。中教審でも掃除までアウトソーシングするような話がでていた。掃除も週に1回しかできないような規模で学校の教育や運営自体がおかしな方向に行っている感じがしているので、この会自体には賛成したいと思っている。

ただ、前回の答申には教育環境が確保できる限り存続するとか、小規模校のデメリットを解決し教育施策を充実させるということが書いてあった。有漢の義務教育学校や松原小学校の統合のこと、教育の内容を工夫しながらやっても子供たちに満足できる教育を受けさせてあげる状態ではなくなったと判断されたと思うが、そういう文言を入れて、5年前にやったのにと住民の方が首を傾げることがないようにしなければいけないと感じている。

#### 会長

平成30年の答申は、地域に出かけて話を聞き、地域や学校の意見を最大限尊重しようというもので、地域が学校を盛り上げてほしい、地域がどうするのが一番いいのか、そういうものが答申の中に滲んでいる。今回は行政がイニシアチブをとりながら、状況等々聴取してやっていかざるをえない面も出てくると思う。逆にそういう事になれば、地域へ出かけて「こういうふうに将来を考えているんです」という事をご理解いただくやり方になると思う。

#### 委員

前回の答申から5年しかたっていないが、子供のため、保護者のため、地域のため何を一番優先すべきかという事になると、一番に子供のため、それに付け加えるのが教師のためで教師が働きやすい環境づくりができない、教師が普通に児童生徒に向かうことができない教育環境はどうなんだという事も考えていかないといけない。

地域に学校がなくなる事は大きい問題だと思うが、あまりにも少人数になった場合にそれを地域のためという前提の上で残そうとした、地域の声を汲んだ答申だと思う。しっかり話していい答申ができたと思うが、逆に言えば次への一步が遅れてしまった。それと地域からの希望があった場合というように人にさじを投げてしまった部分があるんじゃないかと思っている。

ここで話し合った事は最悪の場合地域のためにはならないかもしれないが、子供たちのためになるという思いでいるので、委員の方々も忌憚のないご意見を出していただき、そしてそれを受け止めて教育委員会は背水の陣をもって今の教育現場に向かっていただきたい。子供が減ったというのは仕方ないので、これからどうあるべきなのかを先んじて考えていくのが教育行政のあるべき姿だと、高梁市はそうあるべきだと思っている。

#### 委員

答申から5年でもう一度考え直そうという方向になっているようだが、子供の事を中心に据えてこれからどういう編成をしていくのか、適正化をしていくのかというのは凄く大きな問題だと私自身は思っている。

デメリットをどうするのことも重要だが、子供たちのためにどのように教育環境を整えていくのがいいのか、真剣にこれから考えて行くのと同時にここで話し合った事で市の皆さんにどの程度どういう段階で伝えていくか、これも大切な部分じゃないかと思う。

#### 委員

校舎の一角に幼稚園があり幼稚園児も小学生とかかわる機会が多く、給食や野菜の収穫、運動会や学習発表会も一緒にして、普段から一緒に遊んでいるので、幼稚園から小学校への接続がスムーズにできている。

人数が少ない学校は、1年生から6年生までがいろんなことで一緒にいるので、1年生は助けられて6年生は支えてあげてというのが自然にできるようになっていて、甘える事や支える事を言葉で子供に伝えるのは難しいと思うけど、感謝したりすることが自然と出来ている環境が凄く好きで、少人数の学校もいいなと思っている。

小規模校のデメリットを解消する一つとして、特認校の制度を活用して学校に行けない子供たちも通える所という特色を付けるのも有効かなと思う。

#### 委員

小規模校のデメリットは確かにあるが、そういう学校でしかできない教育活動も多くある。デメリットは確かに多いがそれをメリットにしていけないか、いろんな工夫がありますが、その限界をどこにするかという事もこれから考えていく必要があると思う。

#### 委員

学校を訪問したとき小規模校のほうが挨拶のできる子が多いと感じた。それぞれ小規模校にもメリットがあり、小規模特認校には小規模特認校のメリットがあるが、高梁市全体の教育を考えたときにどういう規模の学校をどこに配置するのが適切なのか、5年10年先を考えたときにこれから学校をどうしていくかについて皆で考えていきたいと思う。

会長

今は個々の学校についての議論が中心になっているが、市全体の教育をどう展開していくか、例えば特認校の話がでたが市として1校はそういう学校を設置するという視点、文科省は不登校の子供の居場所となる学校設置を目指している。それぞれ学校には地域での役割と共に、市全体の教育のうえでの役割があると思うので、教育委員会で青写真を作りながら現状を見ながらやっていく必要がある。視点は5年先10年先に置いて、現在はこうだからではなく、今後どうなるかという視点を忘れずに議論していきましょうというご意見だったと思う。

## ② 高梁市学校園適正配置検討委員会について

- ・ 設置の考え方等

(事務局説明)

委員

この委員会で適正配置の計画案を作ることだが、30年3月の答申は生きているということだよいか。答申との整合性を図りながら協議するのか、答申に反するような内容でもいいのか、そのへんを教えてもらいたい。

委員

例えば答申にある再編の基準に「全校で15人を下回ったとき」を付け加えたものを作っていいのか、答申は関係なく新たなものを作っていいのか、そのあたりの考え方を教えてもらいたい。

事務局

前回の答申に沿っていこうとすると厳しい状況になってきたので、今回見直しをさせていただくということが大前提。今回諮問を受けたものではないが、現状が答申とあっていないので、そういうことを踏まえ皆様のご意見を頂いて修正案を考えていくという形になる。

前回の答申の際には、配置計画の策定まではできていなかった。今回は具体的な配置計画を策定し、答申を修正して具体的なものにしたいと考えている。

事務局

最終的に3月の教育委員会に諮って議会に報告し、教育委員会の方針として公的に認められたものにしていきたいと考えている。

委員

答申に基づいて準備委員会が設置される場合、今の会の内容をどう捉えたらよいか。

会長

事務局から説明があったが、子供の急減ということ踏まえて、このままでは十分な対応ができない。従前の答申でここまで来ているものはそのまま対応していけばいいし、まだ対応できていない

ところについては、よりシビアな目で見えていくことになると思う。

#### 委員

今後保護者から疑問や意見がでると思うので、可能であれば柔軟な対応をお願いしたい。

#### 会長

地域に出て説明してくださる機会もあるので、それは吸収できると思う。

我々は、教育委員会に報告して、教育委員会は市長や議会に説明し反映してくださる、そういうステップになると思う。

#### 事務局

今回、教育委員会が原案等を出して、それを検討していただくように、かなり行政主導的な部分が濃くなる。教育委員会が原案を出し、それを皆さんに諮っていろいろな意見をいただきよりよいものにしていきたいと思う。

それを認めてもらったら、我々が責任をもって実行していくという形をとりたいと思う。その後の説明等も教育委員会が各地区を回り、議会への報告や住民への広報も責任をもってやらせていただく。

### (2) 学校園を取り巻く本市の現状について

- ① 児童生徒数の現状と将来推計
- ② 学校施設の現状等
- ③ 就学前の状況
- ④ 運営経費等

#### (事務局説明)

#### 委員

本当に厳しい状況だと思う。今、国も子供たちの学びに個別最適な学びと協働的な学び 2 つの両輪で進めている。子供の数が減って小さい学校の場合、個別最適な学びは発揮できると思うが、協働的な学び、子供たちが切磋琢磨しながら横でつながりながら、あるいは縦でつながりながらというときには、もちろん ICT の活用も必要だが、ある程度の人数がいないと難しいと思う。そういう点でも考えていくと、ある程度適正な規模が子供の学びのためには必要じゃないかと思う。

もう一つ、教員養成に関して先生の学びや育ちにも切磋琢磨していかないといけない。先生が 1 人や 2 人の学校に新しい先生を入れた時、その先生はどうやって成長していくかという先生同士のつながりや高め合いということを考えると、子供の学びを第一に考えないといけないが、先生たちのこれからの育ちや学びを考えるとある程度の学校規模が大切になってくると思うので、そういうことも含めて今後議論を進めていきたいと思う。

#### 委員

児童生徒数の少ない学校やそこで働く先生の苦労や頑張っている話を聞いて勉強になった。

## 委員

子供の数が減っているのは目に見えてわかるので、統合に対する覚悟というか気持ちのうえでの準備はできかけているけど、何時になるのかというのがある。はっきりしたところを聞かないと噂が噂を呼ぶので、教育委員会には細部まで正しい情報を伝えていただくことが、地域の方にとってもいいと思う。

## 委員

出生数を見ると愕然とする数字ですが、年寄りからは小学校はあってほしいという話を結構聞きますし、小学校がなくなると活気がなくなると地域の会合でも言われる。一方で親御さんの負担もあるし現実を見ないといけないというのもあるので、視点を変えて子供を増やす施策をもっと進めてほしいと思った。

### (3) その他

- ・ 今後の進め方

## 事務局

次回の会議は、10月の1週目か2週目で開催予定。

## 5 その他

特になし

## 6 閉会

副会長あいさつ

### 副会長

みなさん本当に今日はお疲れさまでした。子供のためにこれだけ熱心に皆さんが意見を出されたことは、必ず次の委員会にもつながるし、子供たちのためになるので今後とも皆さんお忙しいとは思いますが、この委員会は時間よりも内容ということでご協力をお願いしたい。